

# 高知大学 病院 ニュース

〔編集〕

高知大学病院ニュース

編集委員会

委員長 寺田 典生

〔発行人〕

高知大学医学部附属病院

病院長 横山 彰仁

## 就任のごあいさつ



医学部長 杉浦 哲朗

平成26年4月1日より医学部長を拝命しました病態情報診断学講座の杉浦です。どうぞよろしくお願いいたします。

高知大学医学部の基本理念である「地域に密着した先端医療の推進」と「人間性豊かな医療人の育成」に基づいた医学・医療を推進するためには、優れた教育・研究・

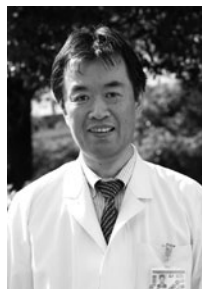
診療の三本柱の充実・発展が求められます。教職員業務の量と質が高まっている一方で、国立大学法人化や臨床研修制度の余波を受け、教職員数が減少しており、限られた人員の中でこの三本柱を立てるには限界があります。国家試験合格率や研修医のマッチング率向上により医学部及び地域定着医師を確保してマンパワーを充実させることこそが医学部発展の基礎となります。さらに個人から教室そして部門へと、医学部全体が「チーム医学部」として三本柱の方向性を決定し業務を遂行していくことが重要となります。

教育では、将来の医療を担う医療人の養成機関として医学生の基礎・臨床研究、卒後の初期・専門研修等を行います。優秀な医師に育成し、卒業生の県内定着率を安定維持するためには、魅力ある医学教育課程や卒後臨床研修体制の整備が求められます。これには、医学教育創造・推進室のスタッフだけでなく、教員各自が学生とのコミュニケーションを密にして学生の満足度を高めることが必須と考えます。

研究については、医学の発展と医療技術水準向上に貢献できる研究機関として、本学部では先端医療学推進センターが基礎研究から臨床研究への橋渡しを行ってきました。そして、平成24年に設立した次世代医療創造センターは、質の高い臨床研究・医療シーズ実用化の拠点として臨床研究活動に対するサポート体制を強化しています。この二つのセンターが中心となって推進するリサーチは、地域医療の発展に寄与するだけでなく、学生を研究現場に参加させることにより医学教育にも貢献するものと期待されます。

診療については、医学部は地域の中核病院として高度医療の提供、地域医療機関へ医師の供給を行う役割を有します。附属病院が今後も県内唯一の特定機能病院として各医療職がお互いに情報を共有し、協調しながら医療の質と安全の確保に努めるとともに、県内の地域医療を担う医師の養成を積極的に推進していきたいと考えています。

これからの2年間、地域に信頼される高知大学医学部として学生と教職員が協働し、更なる地域医療貢献と、わが国の医学の発展に寄与できればと考えております。皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。



病院長 横山 彰仁

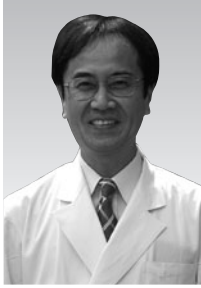
このたび、杉浦教授の後を受け病院長に就任いたしました。高知大学医学部附属病院はその創設以来、地域に密着しつつ高度な医療を提供する県内唯一の医育機関附属病院としての役割を果たしてきました。2011年には開院30周年を経て、次の30年(ヒトでいえば還暦)に向かって職員一同、決意新たに邁進しているところと認識しています。

臨床医学はサイエンスとアートといわれますが、その到達点に大学病院およびその構成部門があると自負しています。そのような認識のもと、これまでの病院のあゆみを踏まえつつ、診療のみならず、病院における教育・研究環境を改善する改革など、さらなる発展のために努力する所存です。それによって、「高知家」の一員として高知県の「日本一の健康長寿県構想」に寄与すべく、引き続き地域の医療環境の向上に努めたいと思います。

本院は職員の皆様にとって働きがいのある病院でなければならないという原則を大切にしたいと考えています。魅力ある病院であり続けることが不可欠であり、特に女性や学生を含めた若者を引き付ける病院であることが重要と考えます。医師を含めた女性職員に対して、これまで以上に活躍の場を拡充したいと考えていますが、最優先の課題は研修医や看護師の増加であると認識しています。この点は病院のみならず全県的問題でもあります。研修医については医学部における臨床教育との一貫性の構築、2015年から開始される新たな専門医制度など、不透明な部分もありますが、優秀な医学・看護学生に一人でも多く本院に残ってもらうために必要なことを医学部と連携しつつ実施していきたいと思っています。そのほか院内の環境整備、例えば清掃のような小さなことを進めていきます。さらに病院あるいは医学部における節電等は限界にあることより、高知に利点のある太陽光発電の可能性などを本院の魅力を増すという視点で考えたいと思います。

本院が職員・学生から愛されるものであることは、地域住民・県民の「おらんくの病院」であり続けるためにも必須のことと考えます。魅力ある病院、職員・県民が自慢できる病院として、わずかずでも前進できることを着実に実施するために脇口学長、杉浦医学部長をはじめ、皆様と相談しつつ、最大限の努力を傾けていきたいと思っています。

## 就任のごあいさつ



医療学系長 藤枝 幹也

この度、平成26年4月1日付けで、谷 俊一前医療学系長の後任として医療学系長を拝命いたしました。私は、学生時代から恩師、学内外の諸先輩、同僚、後輩さらに地域の多

くの方々のご指導、ご援助をいただき、今日まで育ててきていただきました。私にとり、本年が医学部卒業30年目の節目にあたる年であり、今までにご厚情を賜りました多くの皆様方に恩返しをする時が訪れたと思っています。

予算削減など、医療学系の運営は困難な状況が続いております。この難局を乗り越えるために、今後も、全ての教職員の皆様のご支援のもと改革案を練り上げ、さらに遂行していきたいと思っております。従来からの重要課題でありました後期研修医確保に関しましては、医学教育部門の先生をはじめとする関係の皆様方の弛みないご尽力によりまして、その成果が出てきていると思っております。現在進行中の研修医を対象とした、全科をあげたレクチャーや講演会など優れたプログラムは今後も積極的に促進、援助していきたいと思っております。2017年4月から開始が予定されております新専門医制度に先んじて、専門医養成のための研修体制・プログラム作成については、本学を中心に関連施設との話し合いが開始されており、これを足がかりにより多くの後期研修医確保のために努力いたします。研修医確保の場面で、最重要点は、母校卒業生の確保と考えております。そのためには、医学部学生と教職員の、基礎系から臨床系にわたる、継続的な6年間のつながりと対話が不可欠です。教職員の皆様方には、今後も、愛情を持って医学部学生に接していただき、共に学び、成長・発展していただきたいと思っております。

教育、研究および臨床はすべてリンクしており、どれが欠如してもその機能は破綻してしまいます。医学部学生と教職員のきずなは人員確保につながり、さらに、学内外の基礎・臨床の共同研究促進が、学内の研究と臨床の飛躍に結びつくと確信しており、そのための環境作りに邁進して参ります。オール医学部として、教職員の皆様方の叡智を仰ぎつつ、医療学系長の任務を果たしていきたいと思っておりますので、皆様方のご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。



「桜の花の木の下で」  
医学科長 降幡 睦夫

桜の季節が訪れます。高知城、岡豊城跡、土佐山田、どこも毎年、艶やかなまでに満開に咲き誇る桜達の姿は、まさに春到来を告げるにふさわしい光景です。桜の名所とは言わないまでも、校内の桜並木もそれはなかなか好ましく、見上げれば青空を背景にホワイトピンクに彩られ、ひっそり佇む電光に照らされた夜桜は、まるで一人別世界に入り込んだような、漂う香りさえほのかに暖かく刺激的であります。

年月を経るに従い、あれ程の荘厳な大木となり、それなのにあれ程の繊細な美しい花を咲かせる木が桜のほかにあるでしょうか。誠、一国の国花にふさわしい。天然記念物になるような古木において、その出で立ち是一本にして清々しく、満開はまさに見事としか言いようがありません。

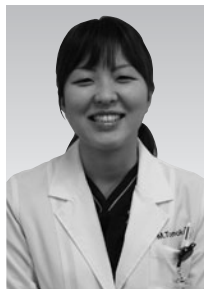
桜は散りながらも既に一年後の開花準備を怠ることはありません。葉桜となり、夏の暑い陽ざしを受け颯爽と生い茂り、落葉に身を任せ、長い冬の時期を過ごした後に、満開の艶姿を表すことができるのです。ある日本画家は桜の古木の満開の姿を描くために、その樹の四季折々の移り変わりを、直接自分自身の眼で観、様々な情景を知り尽くそうと、一年間を桜と共に過したそうです。心のキャンパスに桜の姿が描かれるまで、画家はその傍らで一人静かに待ちました。

桜の季節が訪れると、普段は何の変哲もない北山にも、周囲の緑に混じりながら、一本また一本と桜花色に彩られた木々を見かけます。そのような山中に桜があるなどとは気づかない所、全く人の眼にふれ得ない場所にさえ、桜の名所と同様の開花現象が起こっています。たとえどんな場所にあっても、一年間の準備の後に、桜木は確実に花を咲かせます。

本学は一地方大学医学部であります。教員数に依存するマンパワーおよび設備規模の観点からは、必ずしも恵まれているとは言いがたいのですが、全教職員は優れた医師の育成に誠心誠意取り組んでおります。学生らが日々地道に将来の医師に向けての準備に怠ることなく努力を重ね、本来備わった彼らの可能性を見失うことなく、若者から大人へと成長できる、そんな環境を学科長として提供していきたいと思っております。学生一人一人との対話を尊重し、時間をかけ丁寧に見守りながら、高知に根を張り、やがて先鋭の若手医師として開花するその時を享受したいと願います。

あと何回、満開の桜を観ることができるでしょうか。我々自身も準備をしなくてはなりません。

## 卒後臨床研修を振り返って



松澤 智佳

**2** 年間の初期研修を振り返ると、長いようであつという間でした。関わってくださったすべての方々に感謝

の気持ちでいっぱいです。初期研修は、私にとっては正直に言うと苦しい2年間でした。大学を卒業してやっと医師として患者さんの診療に携わることができるようになった喜びもありましたが、人の命に直接関わることに対する怖さのほうが大きかったです。

\*\*\* \*\*

この2年間は大学病院を中心に一部の診療科は市中病院で、地域医療は橿原で研修しました。それぞれの病院に役割や特色があることを知り、高知県の医療についても考える機会を持つことができました。

\*\*\* \*\*

そして各診療科で関わらせていただいた患者さんからは、実際に診療することでしか分からない数々のことを学ばせていただきました。慣れない私を温かく見守って下さり、優しい言葉やときには厳しいご指導をいただくことで、経験を積み成長することができたと思います。

\*\*\* \*\*

各診療科でご指導いただいた先生方はもちろんですが、本当に様々な職種の方にお世話になりました。病棟や廊下でそっと声をかけていただいて救われたことが何度もあります。また同期の研修医はそれぞれ個性的で、楽しい2年間を過ごせました。

\*\*\* \*\*

まだまだ未熟で不安のほうが大いですが、少しでもお世話になった皆さんに恩返しできるよう、患者さんのためになる医療ができるように日々頑張ります。よろしくお願ひいたします。



古島 知樹

**大** 学病院で2年間の初期研修プログラムを終えました。このプログラムでよかったことは、自分の希望に合

わせて研修科をアレンジできたことや大学病院以外の病院にも研修に行けたことです。2年間に4施設14診療科で研修させていただきました。初期研修中、尊敬できる医師に出会えたことは自分にとって大変刺激になりました。惜しみなく知識や経験を教えてくださった各科の指導医の先生方、指導・助言をいただきましたコメディカルスタッフの皆さん、ありがとうございました。

\*\*\* \*\*

研修が始まった当初は何をするにも右往左往していたことを思い出します。いまたまに右往左往しますが、自分にできることも増え、少しは成長できたのではないかと思います。各診療科を1,2か月ごとにローテートし、その都度環境に慣れ、新しい仕事・知識を覚えることに疲れることもありましたが、そのようなときに激励・助言・軽口をくれた研修医の仲間や研修環境を整えてくださった卒後臨床研修センターの皆さんに感謝しています。

\*\*\* \*\*

私は初期研修での経験を生かしながら、専門性を深めて信頼される医師を目指してトレーニングしていきます。今年度からは初期研修医を教える刺激を与えられるようになりたいと思います。

\*\*\* \*\*

今年度は多くの初期研修医が採用されました。今後もより一層の研修医指導をお願いいたします。

# 医局長・外来医長・病棟医長一覽

平成26年4月1日現在

診療科	科長	副科長	医局長	病棟医長	外来医長
内科	西原 利治	岩崎 信二	岩崎 信二	耕崎 拓大	高橋 昌也
	●寺田 典生	藤本 新平	西山 充	谷口 義典	次田 誠
	横山 彰仁	窪田 哲也	窪田 哲也	池添 隆之	大西 広志
	北岡 裕章	古谷 博和	山崎 直仁	谷岡 克敏	久保 亨
小児科	藤枝 幹也	久川 浩章	久川 浩章	山本 雅樹	堂野 純孝
精神科	森信 繁	下寺 信次	藤田 博一	赤松 正規	永野 志歩
皮膚科	佐野 栄紀	中島 喜美子	中島 喜美子	志賀 建夫	大湖 健太郎
放射線科	(西岡 明人)	西岡 明人	久保田 敬	山西 伴明	西岡 明人
外科	花崎 和弘	杉本 健樹	駄場中 研	北川 博之	沖 豊和
	●渡橋 和政	西森 秀明	西森 秀明	久米 基彦	福富 敬
形成外科	栗山 元根	吉田 行貴	吉田 行貴	吉田 行貴	吉田 行貴
麻酔科	横山 正尚	山下 幸一	山下 幸一	北岡 智子	河野 崇
産科婦人科	(前田 長正)	前田 長正	泉谷 知明	前田 長正	池上 信夫
	(池内 昌彦)	池内 昌彦	武政 龍一	公文 雅士	木田 和伸
眼科	福島 敦樹	福田 憲	角 環	西内 貴史	松下 恵理子
耳鼻咽喉科	兵頭 政光	小林 泰輔	小林 泰輔	小森 正博	弘瀬 かほり
脳神経外科	上羽 哲也	政平 訓貴	政平 訓貴	政平 訓貴	中居 永一
泌尿器科	執印 太郎	井上 啓史	蘆田 真吾	佐竹 宏文	鎌田 雅行
歯科口腔外科	山本 哲也	北村 直也	笹部 衣里	吉澤 泰昌	久保 慶子
総合診療部			武内 世生	北村 聡子	小松 直樹

●は主任科長、( )は代理

	部門名	部門長	副部門長
内科	胃腸内科部門	西原 利治	東谷 芳史
	肝・胆膵内科部門	岩崎 信二	小野 正文
	内分泌・糖尿病内科部門	藤本 新平	西山 充
	腎臓・膠原病内科部門	寺田 典生	堀野 太郎
	血液内科部門	池添 隆之	砥谷 和人
	呼吸器・感染症内科部門	横山 彰仁	窪田 哲也
	老年病科部門	北岡 裕章	山崎 直仁
外科	循環器内科部門	北岡 裕章	山崎 直仁
	神経内科部門	古谷 博和	大崎 康史
	消化器外科部門	花崎 和弘	並川 努
	心臓血管外科部門	渡橋 和政	西森 秀明
	呼吸器外科部門	久米 基彦	穴山 貴嗣
科	乳腺・内分泌外科部門	杉本 健樹	沖 豊和
	小児外科部門	杉本 健樹	坂本 浩一
	臨床腫瘍・内視鏡外科部門	小林 道也	岡本 健



## 平成26年度 病院ニューズ編集委員会委員名簿

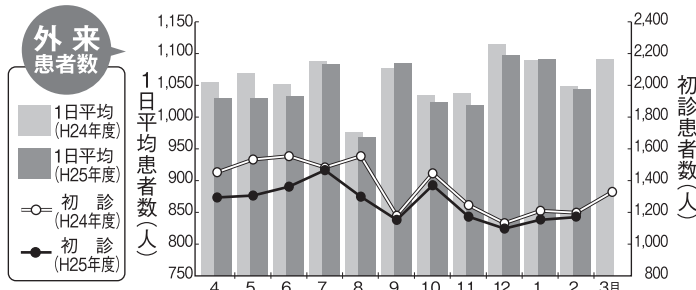
任期:平成26年4月1日~平成27年3月31日

- 委員長** 寺田 典生 [内科(内分泌代謝・腎臓)科長]
- 副委員長** 福島 敦樹 (眼科 科長)
- 委員** 中島 喜美子 (皮膚科)
- 政平 訓貴 (脳神経外科)

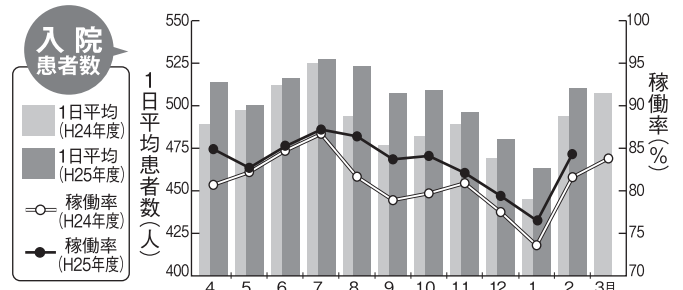
委員

- 片岡 浩巳 (医学情報センター)
- 弘末 正美 (看護部 副看護部長)
- 刈谷 誠 (総務企画課 課長補佐)
- 大野 憲昭 (医事課 課長補佐)

## 診療状況



1日平均患者数は1月と2月ともに前年同月とほぼ同等。  
初診は4月から連続して前年を下回っている。



患者数・稼働率共に、4月から連続して前年同月に比べて高くなった。  
1月と2月の稼働率も3%近く増加した。

## 編集後記

桜の花便りを聞きながら新年度を迎え、  
杉浦哲朗医学部長、横山彰仁病院長のお  
二人が就任され、ご挨拶をいただきました。  
また、医療学系長、医学科長も就任され新たなリーダーのもとでのスタートです。各部署においては新人を迎え入れ、新しい風への期待を大きくふくらませながら、計画通りに病院再開が円滑に進むように願っている

今日この頃です。建設中の新病棟は落ち着いた外観が現れはじめており、移転に向けての準備もこれから慌ただしくなるような予感があります。  
4月から診療報酬改定や消費税アップなど厳しい状況もあろうかと思いますが、全職員で今年度乗り切り、良い年となることを願っております。  
病院ニュース編集委員として1年間、お世話になり有り難うございました。  
(文責:若狭 郁子)